

美しい農村継承

栃木県那須塩原市三区町保全隊

新旧住民が力合わせ

栃木県那須塩原市で多面的機能支払交付金の活動に取り組む「三区町環境保全隊」（佐々木賢代表）が、今年で発足10周年を迎えた。これを記念してその活動をまとめた冊子「10年のあゆみ」子どもたちに贈る美しい農村環境」を出版。地域住民が協働で進めてきたコミュニティづくりの足跡を振り返っている。

農村地帯だった三区町（区町自治会）、女性団体では、周辺の工業団地への企業進出などで住宅地化が進み、新たに転入した「新住民」が急増している。一方、農村部では高齢化が進み、農村文化の継承や環境の保全などが課題になっている。

環境保全隊は、自治会とは別に交付金の活動組織として発足。農業者による「三区生産組合」や景観形成を担う「地区行動隊」（三

区町自治会）、女性団体では、周辺の工業団地への企業進出などで住宅地化が進み、新たに転入した「新住民」が急増している。一方、農村部では高齢化が進み、農村文化の継承や環境の保全などが課題になっている。



10年の活動 冊子に



ホタルの繁殖を目指して小川に幼虫を放す子どもたち（栃木県那須塩原市で。三区町環境保全隊提供）

水路などの保全活動、生きもの調査などをはじめ、花

植えなどによる景観美化、地域をコースにしたウォークイベント、農業体験など幅広い活動を繰り広げてきた。

特徴的なのは、交付金の対象外であっても地域に必要な活動をカバーするため、NPO法人「三区町地域資源・環境保全会」を発足させたこと。「環境保全隊」を事務作業などでサポートしている。

冊子には10年間の活動の変遷を、写真を中心に収めた。住民たちが力を合わせて作業を進める様子が紹介され、特に子どもたちの姿が生き生きと記録されている。

転入してきた住民の一人で法人の事務局長を務める鈴木良雄さんは「祭りの運営、医療・福祉、防災・減災など、この10年間に活動の幅は大きく広がった」と振り返る。その上で、「今後、高齢化で活動の継承が課題になる。さらに多くの住民が参加できる環境をつくりたい」と話している。

（とちぎ）